第１回富山県再犯防止推進計画検討委員会　議事要旨

１　開催日時　令和元年７月31日（水）　午前10時～11時50分

２　開催場所　富山県民会館701号室

３　出 席 者　別紙出席者名簿のとおり

４　議　　事

1. 委員長の選出

→委員の互選により、宮田委員が委員長に選出された。

→宮田委員長により、車委員が副委員長に指名された。

（２）富山県再犯防止推進計画の策定に当たっての基本的な考え方

（３）計画の体系（イメージ案）

（４）富山県における再犯の現状、再犯防止に関する取組み状況等

（５）今後のスケジュール

→（２）～（５）について、事務局より説明

（６）意見交換

（７）その他

５　主なご意見

《連携の強化について》

・連携強化という点に関して、全体をまとめるような形、体制、再犯防止推進ネットワークというか、県の方で協議会を一つ設置していただきたい。

・横串のような体制が一番欠けている。それぞれの団体はそれぞれでやっているが、どうも、全体を統制できていない。被害者支援でワンストップの取組みがあるが、そういったものにたどり着いていただくことを希望している。

《地域における取組みについて》

・再犯防止推進の取組みは、犯罪や非行が起きる場所が、家庭や学校、そして地域社会であるということを考えると、犯罪や非行の少ない地域、生まない地域、やがては地域の福祉増進に寄与することにつながる。

・地域共生社会の実現に向けて、犯罪をした者を含め、地域で困っている人、困った人を孤立・孤独に追い込まずにどうやって支援していくかということが、重要なポイントとなる。

《就労支援・雇用定着について》

・協力雇用主の登録数のうち、実際に雇用している協力雇用主は２％程度にとどまっており、極めて低い。また、協力雇用主は建設業が５割以上占めているということだが、社会そのものが人手不足、求人倍率が高いということからすると、もっと裾野が広い（広くあるはず）。

・社会に出て何をするかということを事前に受け止めて、具体的に雇用・定着につながるような対策を進めていかないといけない。

・働く習慣がついていない人が多く、働く習慣がない人にいかに働くということを教えるか、習慣をつけさせるかということが課題。

・就労させる、職業相談して紹介して終わりというわけではなく、重要なのは、いかに定着させていくかということ。

《医療・福祉との連携について》

・薬物依存症者に関して、偏見が地域の中で強く根付いてしまっている。再犯を犯した依存症者が社会の中では住みづらくなっている。薬物依存症者であっても、治療を行い、社会の中で出発できるということを最初の段階から伝えていくことも必要。

・薬物事犯者は、犯罪者というところから罰するという観点から議論されるところではあるが、依存症にかかっているということで、治療するという観点が必要。

・性犯罪者については、医療との連携が必要であり、高齢や障害のある犯罪者については、福祉との連携が必要。いずれにしても、医療や福祉の専門職と連携を図ることが重要。

《市町村における再犯防止の取組みについて》

・行政、とりわけ市町村においても従来の縦割りの考え方、発想をなくしていただいて対応していただくことが大事。

・市町村における再犯防止という視点も含めて取り組んでいただければ、富山県全体に行き渡ると思う。

《犯罪の未然防止について》

・地域で犯罪を生まないためには、もっと若いお母さん方の家庭教育の充実をしていく、そのためには、ＰＴＡの方々への働きかけも大事ではないか。

・非行の未然防止、まさしく、犯罪を起こさないというのが一番大事なことだと思う。道徳教育は、日本の子どもたちに一番足りないのではないか。

《その他》

・高齢受刑者が非常に増えており、いかに社会につなげていくかが課題。